

平成28年度私立大学研究ブランディング事業計画書


1. 概要（1ページ以内）

学校法人番号	301001	学校法人名	高野山学園		
大学名	高野山大学				
事業名	「高野山アーカイブ」の構築と世界遺産高野山の生成・発展・継承に関する密教学的研究				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	200人
参画組織	高野山大学（文学部大学院・高野山大学図書館・密教文化研究所）				
審査希望分野	人文・社会系	○	理工・情報系		生物・医歯系
事業概要	高野山大学は創立130周年の伝統を有する密教の最高学府である。図書館、密教文化研究所では、多くの密教に関する貴重書が保管されており、世界に数少ない密教の教育・研究機関と言える。本学の過去の歴史的資料や、高野山文化圏に関わる多くの資料をアーカイブ化し、連綿と続く1200年の密教の遺産を次世代へ繋いでいくことは、大きな価値を有すると考えられる。				

イメージ図


高野山(世界遺産)アーカイブプロジェクト

密教学・学術研究の波及効果・公開写本と出典(山内寺院情報)をMAPにて連動させて観光側面への利用効果を拡大していく。




霊宝館

※古地図の歴史的時系列アーカイブ等
文化庁メディア芸術アーカイブ



高野山大学

密教文化研究所 高野山大学図書館




高野山町役場


※高野山の文化
過去行政資料
過去写真アーカイブ化

高野山アーカイブプロジェクト概要

- 文化財・貴重書
- 收藏品・専門資料
- 弘法大師著作集のテキストのデジタル化（オープンデータベース化）
- 写本の公開（時系列にて写本を表示してテキストと連動させる）
- ※著作権保護が必要な資料の不正コピー防止
- N DLサーチに連動させる。



国会図書館デジタルコレクション
(N DLサーチと連動を想定)



高野山ポータルサイト

地域を面としてストーリーを紹介
→関連書籍、展示、資料、画像等を掲載
→関連するイベント情報
高野山文化の源流を辿る

読み下し文
現代語訳

表示画像の操作
拡大/縮小
回転

開覧画面の操作
ページ戻る/進む
左右上下ペインの表示/非表示（非表示は本題とその分画領域が大きくなる）

アウトライン（分鏡）参照

各ページのサムネイル

研究の進展効率化

- 大学ゼミ単位の研究室
- ポータルサイトの拡張も可能
- レポートの機能の拡張も可能
- 過去の学術論文データベースの追加も可能。

魅力再発見

- 高野山の文化をアーカイブ上に地域の視点から浮上させていくことで、地域住民の方々が高野山の魅力を再発見する形のポータルサイトの構築へ繋げていく。

イベント情報、観光情報の入手

- 弘法大師空海著作に辞書機能を付与していくことで、一般の観光客等にも読めるようにメタ情報を付与していく。
- また高野山内の写本の出所のMAP情報に連動させることで、観光の資産としても活用していく。
- 現在MAPと古地図のGPS機能（アプリ化）

・高野山エリア全体で文化発信することにより、地域振興・観光振興に寄与する。
 ・機関連携により、新たな知恵・価値の創出も！

2. 事業内容（2ページ以内）

<p>（１）事業目的</p> <p>本事業の目的は、高野山大学に蓄積されてきた歴史的資料（聖教類・古絵図など）をデジタル化し、それらを「高野山アーカイブ」として広く公開・発信することで、高野山に関する密教学的研究の深化・促進を図ることにある。</p> <p>本学は、本年創立130周年を迎えるが、弘法大師空海は、816年にあらゆる人々の修行・研鑽の場として高野山を開創し、フランシスコ＝ザビエルが本国に宛てた書簡に、都にある大学の他に五つの主要な大学の筆頭として「高野」を挙げている。高野山は密教の根本道場としての役割だけでなく、教育機関として1200年の伝統を有しているのである。また、1898年に創設された本学図書館は、高野山全山の図書館としての性格を有し、仏教や密教に関する資料は国内有数の蔵書数を誇り、その合計は30万冊に及ぶ。その3分の1にあたる10万冊は、中・近世の古典籍で、国指定重要文化財3点をはじめ、多くの古写本や版本を含み、仏教・密教の研究者のみならず、国文学・国語学・歴史学など、国内外の研究者から注目を集めてきた。それらの蔵書は、日本文化の礎を築いた弘法大師空海の伝統を継承する本学の特色を示すとともに、貴重な文化財としての価値を有している。さらに、本学には、1943年に発足した密教文化研究所がある。『定本弘法大師全集』をはじめ、仏教や真言密教の研究成果を出版物として刊行してきたほか、インド・チベットなどの研究機関等との連携にもとづく調査成果など、真言密教の研究拠点として、その実績は国内だけでなく海外にも知名度を誇っている。</p> <p>しかしながら、本学に蓄積されてきた歴史的資料は、これまで出版物やDVDとして公開されてきたが、十分なアーカイブ化がなされず、したがって、誰でもがアクセスし、それを活用する状況にないのが現状である。本事業は、こうした現状を大きく刷新し、1200年の伝統の下に蓄積されてきた貴重な歴史的資料にアクセスすることを容易にしていける。このことは高野山に関する密教学的研究の深化・促進に繋がっていく。密教の新たな価値を生成するツールとして位置づけられることになる。</p> <p>また、本事業は、研究者だけでなく、地域の再発見をもたらすツールとしても活用できる。1200年間にわたって継承されてきた歴史・文化を中心とした高野町の活性化を目指す。本事業は、密教というブランド力を受け継いできた本学だからこそ実現できる独自の事業であり、「心の癒し・目覚め」を求める時代において、本学が蓄積してきたブランド力や伝統にもとづいて地域や社会に貢献できると確信する。ひいては埋没しがちな日本の精神文化に新たな光を照らすツールとしてのアーカイブを目指すものである。</p>
<p>（２）期待される研究成果</p> <p>（期待される研究成果） 本事業によって期待される研究成果は、以下の三点が挙げられる。</p> <p>①真言密教の研究への新たな研究ツールの提供</p> <p>本来、密教の歴史的資料（聖教類、儀軌・口訣、次第など）は基本的に正式な灌頂の儀式や、各個人の導師である阿闍梨の伝統に基づく口伝を通じて、師から弟子へ継承され、師資相承が厳儀であった。そのため、未灌頂（資格のない）者が、阿闍梨の許可を得ずに、聖教、口訣等を読むことは、密教では重罪とされた。つまり、密教の貴重書などのアーカイブが存在しない理由の一つは密教が師資相承を基調とした「秘密の教え“Esoteric Buddhism”」であるからと推測される。資格のない者が密教の教相（理論）、事相（行法）に触れること自体が、越法罪に該当した。現在でもなごりが残っており、行者は阿闍梨の伝授をはじめて受けて修法が許可される。本の知識では本当の意味で密教を理解できず、伝授は密教の修法のスターターの役割を持っている。一方で、密教学では僧籍をもたない研究者も多く、オリジナリティに富んだ研究が発表されている。これまで、弘法大師の著作は定本弘法大師全集を利用した研究が基本的な研究スタイルであったが、近年の情報メディアの急激な変化により、SAT大正新脩大藏經、台湾CBETAのようなデータベースを活用した仏教学の研究手法が主流になる。大藏經の縦断検索により、一つのキーワードの仏教史的な解釈、変遷を推測することが容易になった。師資相承を基調とする密教においても、かようなツールのニーズは高く、また弘法大師の著作の縦断検索により、これまで、あたりまえのように横たわっていた、フレーズに新たな解釈や意味の変遷が抽出可能になる。1巻のテキストデータに時代ごと（平安～江戸期）の写本・刊本を連動させ、これまで不明だった事象が容易に解明されることは確かなことと言える。世界的にも密教の聖地は数少なく、1200年前、弘法大師により唐より請来された密教に新たな研究の光を提示することになる。高野山は多くの人々の信仰によって支えられ続けられ、今なお時を刻んでいる。そして高野山という聖なる境界はUN COMMONS（結界）として機能し、高野山アーカイブは「至高性」の高いアンオフィシャルリアリティを再浮上させる装置としての役割を担っていくであろう。</p>

②高野山に関する密教学研究の深化・促進

アンコモンズ（結界）としての密教が一般に公開されることにより、密教という性質の非公認の共有が起こる。それは密教のオフィシャルブランドとしての開放であり、高野山アーカイブというデジタルの仕掛けた、創造性の開放である。創造性は固定化が目的ではなく、創造性＝柔軟なモジュールを「多様性」との連携によって組み込むことで活性される。

包摂の思想が密教の根本命題であり、多用な人材をを組織化し、場を形成する。これが高野山アーカイブというブランディング戦略である。高野山アーカイブはあたかも、紙面媒体にメモや、線を引き、書籍に関与するように、電子化されたテキスト、写本にタッチペンで関与し、辞書機能により、利用者に応じた解釈、個々の文脈を生成し、グループ化機能を想定する。

③地域の再発見（国際観光都市）

昨年の開創1200年の、高野山はおよそ年間200万人の観光客が訪れた。これまでの最高の観光客数を記録している。特に近年では世界遺産として、外国人観光客の増加が著しく、宗教都市から国際観光都市へ移り変わっている。高野山観光局などは外国人向けのパンフレットなどを配布しているが、地図を片手に目的地を探す、外国人の姿が目立つ。本事業では、内外の観光客へ向けての、GPS機能を付けた、現代地図と古地図の連動アプリを計画する。高野山の古地図は江戸期から奈良時代までのものがあり、初期目的では現代地図と江戸期の地図にメタ情報を付与したアプリの開発を検討している。元々は弘法大師著作集の高野山内の写本の出典情報を地図に連動させることを前提としたものであったが、町役場や観光協会と連携して、内外の観光客が必要とする情報（寺院情報、地域の飲食店・カフェ情報、スポット情報など）を増やしていき、初期のプロトタイプでは、江戸時代（1706年）の地図と連動させることで、過去と現在の歴史探訪が可能のように、スマートなインターフェースを検討する。江戸時代だけでなく、平安～室町時代の歴史探訪が可能のように、古地図情報を増やしていけるものを最終的に目指す。観光客の選択により、好みの時代の歴史探訪が可能にして、高野山の地域史の再発見へ繋げていく。また、図書館・町役場所蔵の大正～昭和初期の古写真情報を地図ブラウザに配置し検索で、近代の町並みを確認できる機能を付与する。高野町史の基礎的なデータをアプリケーションに組み込んでいく。これは不特定多数の執筆者が投稿するデータ（テキスト、写真）を管理者が最終編集する、オープンコンテンツ機能である。

〈成果の測定方法や自己点検・評価及び外部評価の実施体制〉

本事業を推進するにあたっては、学長を委員長とする全学研究高度化推進委員会を設置する。同委員会は、「全学研究高度化推進委員会規定」にもとづき、本事業の運営全般を統括するとともに、研究進捗状況や成果の測定など、自己点検・評価機関としての役割も担う。主席顧問に、元本学学長・本学名誉教授・高野山真言宗前管長で密教研究の泰斗である松長有慶氏を迎えるとともに、密教文化研究所所長を副委員長とし、図書館研究課長のほか、研究事務課長・総務課長などから構成される。委員長のもとには、法人本部長・事務局長からなる法人本部支援室を設け、定期的に開催される会議体において、全学体制で本事業の推進・評価が行われる。本事業の日常的な研究推進は、高野山アーカイブプロジェクト研究室が担う。密教文化研究所長を室長とし、本学教員によって構成される。本学大学院生等を研究補助員として雇用し、若手研究者の育成や高度情報専門分野の養成も兼ねる。

また、外部評価については、真言密教や宗教史に造詣が深い個人と、高野町や高野山にゆかりの深い団体に外部評価委員を委嘱し、本事業の推進や方向性に対して定期的に開催される外部評価委員会で意見を求める。

（3）ブランディングの取組

〈研究の独自性・社会的意義を学内外に広報する方法〉

本事業は、本学に蓄積されてきた1200年の伝統を有する歴史的資料をアーカイブとして公開するという点で研究の独自性を有している。そのアーカイブは、集合Canon(C:公式聖教)と集合Fanon(F:非公式)の交わり、 $C \cap F = \text{Third Kind of Content} = \text{Collaborative approach}$ （共同アプローチ）の創造性＝柔軟なモジュールを有する。本事業の成果を広く学内外に広報するために、本学HP上に専用サイトを設置し、あらゆる人々のアクセスを可能とする。また、関係分野の学会誌や『密教文化研究所紀要』などのほか、シンポジウムや研究会を開催して発信する。さらに、進捗状況は、本学が定期的に発行するNews Letterや、連携機関である高野町や高野山霊宝館が発行する広報誌等に随時報告する。さらに、高野山真言宗が発行する『高野山時報』などでも発信する。本誌は、日本全国の高野山真言宗の末寺や信徒が定期的に購読しており、こうした媒体を通じて広報する方法も、本事業独自の特色である。

〈研究のブランディングを大学のブランディングにつなげていく展望〉

本事業によって期待される本学の研究のブランディングとしては、以下の三点がある。

- ①日本有数の価値を有する歴史的資料へのアクセスが容易になる
- ②密教学研究の新たな地平を切り拓く
- ③国内外の他の歴史的資料との比較研究

以上の研究のブランディングによって、「高野山アーカイブ」を発信源として本学への注目度を高め、密教学研究の拠点として国内外から多くの人材を受け入れる教育・研究機関となることを目指している。

3. 事業実施体制（1ページ以内）

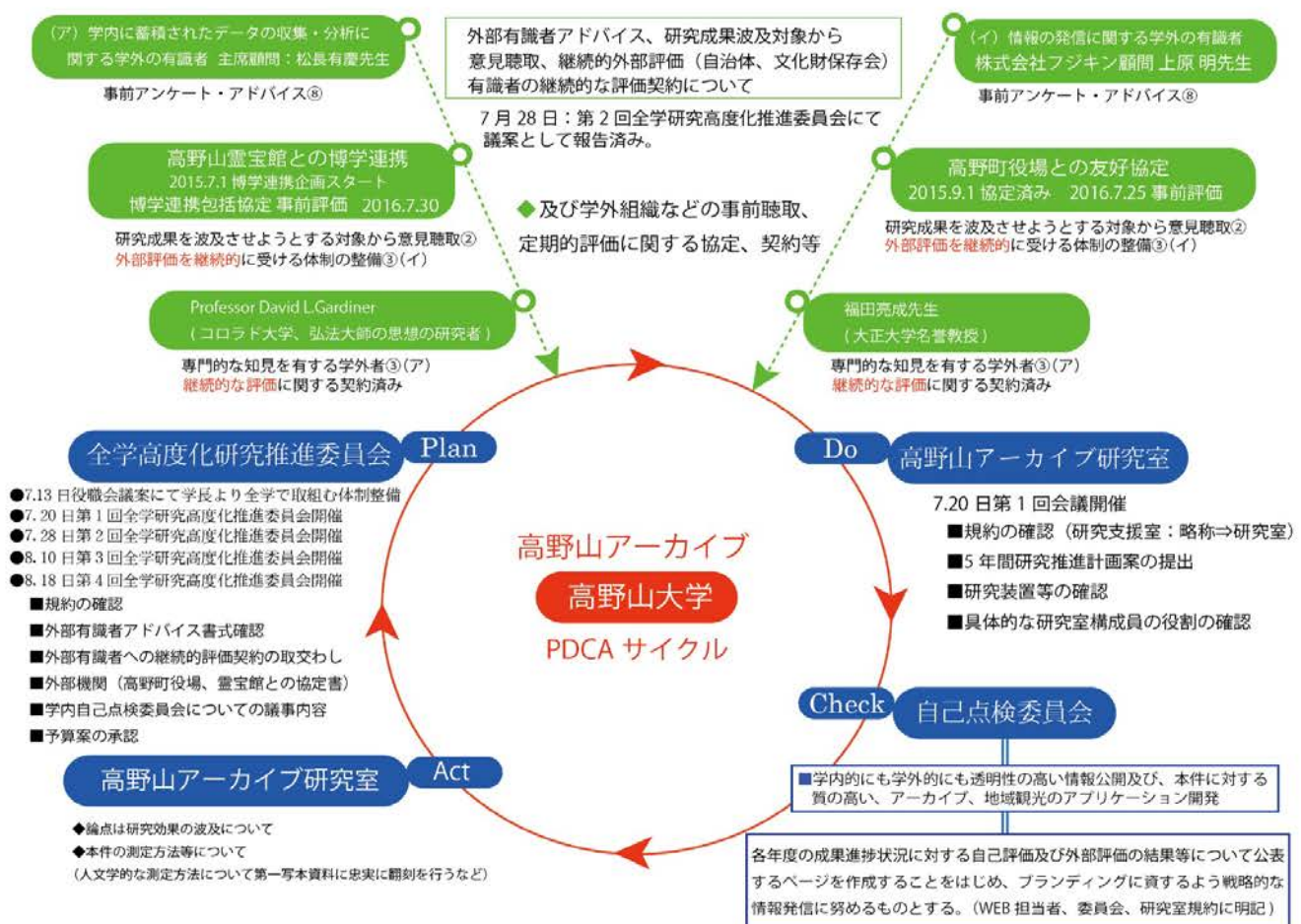
【私立大学ブランディング事業概要】

- 学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出すため
 - ・全学研究高度化推進委員会を発足
 - ・研究支援室（略：研究室）の発足

■タイプA【社会展開型】型にて申請

世界遺産高野山という地域的独自性の高いことから鑑みて、時間（開創1200年の歴史）と空間（密教の聖地）に位置する高野山大学の潜在力を高めることが、即ち、高野山の地域、経済、文化の発展に寄与する研究の促進、観光資源をより効果的に、自治体、霊宝館との連携により、高野山アーカイブとして研究者・観光資源の効率的な利用促進を意図したアーカイブを実現化する。

- 日本に密教が請来されてから1200年の遺産を公開していくことは、大学のブランド力を高めるだけでなく、世界でも数少ない生きた密伝の伝統を継承している高野山大学の使命と言える。高野山アーカイブ・プロジェクトは離散しがちな集団の記憶を文化のもとに再編し、意識、無意識にはたきかける記憶の力がもたらす長期的、持続的な利益をめざしている。離散していく文化（集団の記憶）に対して、現在存在する地域の文化圏の構築、これが高野山アーカイブプロジェクトの解答と言える。アーカイブという文脈生成装置が提示するもの、それは過去でなく、むしろ未来であろう。そしてそれを判断するのは我々でなく、後世の人々と言える。



4. 年次計画（2ページ以内）

平成28年度	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ■全学高度化推進委員会 アーカイブシステムの承認 写本の交渉（高野山図書館寄託貴重書交渉済み） ■町役場、観光協会との打合せ（古写真、MAP情報の提供） ■高野山アーカイブ研究室のスタッフ契約 ■高野山アーカイブ研究室稼働テスト ■制度設計、稼働マニュアル作成 ■10月～3月システム構築
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ■12月 高野山アーカイブ研究室の稼働のための準備（機材導入） ■12月 キャスティング（常勤）と翻刻スタッフの調整 ■2月 現代版の地図の利用契約 古地図データ取得 ■3月 クラウド契約 アーカイブシステム契約 ■初期リリースは『胎蔵秘密略大軌』宇多法王平安期 ■3月 試験公開 標準機能稼働 ■3月 OCRテスト ■マイクロフィルムスキャナー ■広報サイト構築 ■評価評価実施（内部、外部）
平成29年度	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ■10月 アーカイブシステムカスタマイズ インターフェースデザイン完了 ■写本画像デジタル化 『秘密曼荼羅十住心論』『秘密曼荼羅大阿闍梨耶付法傳』など ■高野山大学図書館蔵の写本から開始する。
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ■10月 アーカイブシステムカスタマイズ インターフェースデザイン完了 ■12月 地図アプリ試験公開（現代地図、江戸期地図） ■写本画像デジタル化■高野山大学図書館蔵の写本から開始する。 ■年間計画 弘法大師全集 「平均620ページ」目標 ■広報サイト構築 ■評価評価実施（内部、外部）
平成30年度	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ■写本画像デジタル化 『秘蔵記』『大毘盧遮那成仏経疏文次第』など ■本稼働、9月、外部評価に応じて、システムを再カスタマイズする。 ■辞書機能の連動 ■地図アプリの情報と写真の連動についへの再設計 ■中間報告書作成
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ■外的な評価を基にアーカイブ仕様をカスタマイズする。 ■年間計画 弘法大師全集 「平均620ページ」目標 ■中間評価の報告 ■広報サイト構築 シンポジウム開催 ■評価評価実施（内部、外部）
平成31年度	
目標	<ul style="list-style-type: none"> 高野山アーカイブ 辞書機能との連動について・地図アプリについて本稼働、調整随時行う ■評価評価実施（内部、外部）
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ■年間計画 弘法大師全集 「平均620ページ」目標 ■広報サイト構築 ■評価評価実施（内部、外部） ■長期計画案立案。
平成32年度	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ■高野山アーカイブの完了 ■地図アプリの完成 本リリースする。
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ■年間計画 弘法大師全集 「平均620ページ」目標 弘法大師全集、翻刻、写本の連動完了 ■広報サイト構築 シンポジウム開催 長期改革案決定。（今度の高野山アーカイブの運営について） ■評価評価実施（内部、外部）